

中学校等の教員採用選考・人事配置等について

平成 31 年 3 月の中央教育審議会の「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）」において、「教師の本務は授業であり、限られた時間の中で授業準備がおろそかになるほどまでに部活動に注力することは適切ではないが、部活動に過度に注力してしまう教師の存在も指摘されていることから、教師の意識改革も必要である。このため、教育委員会は、採用や人事配置等において、教師の部活動の指導力を過度に評価しないよう留意すべきである。」と指摘されており、改善が求められている。

また、今後、少子化や学校の働き方改革の進展に伴い、学校に代わり地域でスポーツ活動に参加する生徒が増えていき、また、地域におけるスポーツ活動が整備されるまでの間、過渡的に維持される学校の部活動においても教員ではなく部活動指導員や外部指導者が指導に当たることが増えていくことが想定される。このような状況を踏まえて、教員の採用や人事配置等における部活動指導に係る能力や意思等の評価の在り方を見直していく必要がある。

【課題】

- ・ 教員採用においては、教員の本来職務である学習指導や学校運営等に係る能力や使命感、責任感等を総合的に評価して選考されている。これまでは教員が部活動指導を担うことが多いため、都道府県及び政令市教育委員会における公立中学校等の教員の採用選考においては、部活動指導に係る意欲や指導できるスポーツや文化活動などについて面接や志願書類などを通じて把握し、評価しているところもある。
- ・ しかし、今後は、学校に代わり地域でスポーツ活動に参加する生徒が増えていくとともに、地域におけるスポーツ活動が整備されるまでの間、過渡的に維持される学校部活動においても教員ではなく部活動指導員や外部指導者が指導に当たることが増えていくことが想定され、教員が部活動の指導に直接従事する機会は減少していくことが見込まれる。
そのため、教員採用に当たり、部活動指導に係る意欲や能力を評価して選考を行うことは、教員として担う機会が減少していくものを評価することとなり、本人の意欲や能力と、採用後に教員として担う職務とのミスマッチを生じさせる恐れがある。
- ・ すでに採用され勤務している教員についても、中央教育審議会の答申でも指摘されているように、意識改革を進めるため、教員の人事配置や人事評価において、部活動

に係る意欲や能力を過度に評価しないようにしていく必要がある。

本来は教員の人事配置については、教員の本来職務である学習指導や学校運営等に係る能力や実績等を踏まえて適材適所で配置先が決められるべきであるが、教育課程外である部活動指導に係る能力や大会成績等の実績が、学習指導等に係る能力や実績よりも重視されて配置先の学校が決められている事例もあるとの指摘がある。また、人事評価においても、部活動指導に係る能力や大会成績等が過度に評価されている事例もあるとの指摘がある。そのため、教員の中には部活動の大会成績等の実績をあげるため、部活動に過度に注力する者もいるとの指摘がある。

【対応策】

- 公立中学校等の教員の採用選考に当たっては、学校における部活動の状況や地域におけるスポーツ環境の整備状況等も踏まえ、今後は、面接等に際して、部活動で指導できるスポーツや文化活動の種類や、経験のない活動も含めて顧問として部活動の指導をする意思があるかどうかを聴取するなど、教員が部活動の指導をすることを前提として部活動指導に係る意欲や能力等を評価することを見直す必要があるのではないか。

そのため、国から各都道府県及び政令市教育委員会に対して、公立中学校等の教員の採用選考に当たり、部活動指導に係る意欲や能力等について評価していることがあれば、地域におけるスポーツ環境の整備状況等も踏まえ、適切に見直していくよう指導助言する必要があるのではないか。

- 教員の人事配置において、部活動指導に係る能力や意欲、実績等を過度に評価しないようにしていく必要がある。そのため、公立中学校等の教員の人事配置に当たり、部活動指導に係る能力等を過度に評価していることがあればそれを改める必要があるのではないか。
- 教員の人事配置に当たり部活動指導に係る能力等を過度に評価せずすむよう、部活動指導員の配置を進めるとともに、生徒が地域でスポーツ活動に参加できる環境の整備充実を積極的に進めていく必要があるのではないか。
- スポーツ指導に関して高い能力や意欲がある教員が、地域においてスポーツ指導に従事し、今後とも地域の子供たちなどのためにその指導力を十分に発揮できるよう、兼職兼業の規定を速やかに整備することが必要ではないか。